

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
42	川崎市立井田小学校	松原 晴美

学校教育目標	今年度の重点目標
○自ら学び自ら考える子(学びがいっぱい) ○心豊かな子(やさしさいっぱい) ○たくましい子(元気いっぱい)	○基礎・基本の定着と確かな学力の育成 ○人権尊重の精神の育成といじめのない居心地の良い学校づくり ○個に応じた支援の充実と全校での支援体制の確立 ○家庭・地域の力を活かす教育活動

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導の工夫と改善	校内研究をもとに、児童が自分の考えを持ち表現をする (国語科を通して)学習活動を年間計画を見据えて継続していく。	校内研究とリンクして、考える活動・話す活動・書く活動を各学年に応じて取り組んだ。また、児童が安心して表現できるよう、暖かな雰囲気のある、安定した学級づくりに努力した。	対話的な学びの基礎となる聞き手、話し手に児童を育てることは今後も継続する。またお互いを認め合える学級づくりにも力を入れていく。自分の思いを十分に表現するための語彙力・言語力をつけていきたい。
2 校内研究	「自分の考えをもち、みんなで学びを深める子」を中心テーマに取り組む。	国語の校内研究2年目。それぞれの学級に合ったやり方で取り組んできた。次年度も、継続し研究を深めていく。	わかりやすい授業を児童に提供するための、個々の教員の授業の工夫改善であることを共通理解しながら取り組む。授業提案前の指導案検討を大切にしていきたい。
3 教育課程の編成	児童に対する「育てたい力」を明確にし、共通理解し、教育課程を編成していく。	概ね計画通りに進めることができた。しかし、感染症がなくなったわけではないので、これに伴う社会状況の変化にも柔軟に対応できる教育課程になる様子、必要な修正を加えていく。	児童に求める資質能力を常に念頭に置きながら学習活動、行事等、これまでの慣例にとらわれずに教育課程の修正や見直しを図っていく。校内研究における育てたい力とも関連付けて考えていく。
4 特別支援教育の推進	教育的ニーズを抱えている児童への対応等の理解を深めるための研修や情報交換を行っていく。	支援教育Coを中心に進めてきた。回数は少ないが、研修を持つこともできた。教室での1次支援の充実を図れるよう、今後も必要な研修等を行っていく。	支援教育Coを中心として、引き続き研修等を行っていく。併せて、教職員の意識の改革や自身の学級経営の振り返りも大事にしていく。
5 人権尊重教育の推進と児童理解・次郎指導の充実	共生共育プログラム等の実施・指導・支援で児童の規範意識や自尊感情・他者意識を育てる。個性や特性に応じて支援できる体制を組織する。家庭や関係機関との連携を進めていく。	人との関係づくりが苦手な児童が増えてきている。全教員で、心を育む指導を行ってきた。今後も継続す。個別対応の必要性と保護者の要望が増え、対応に苦慮する場面があった。来年度の課題ではある。	児童の規範意識、自尊感情、他者を尊重する意識を高める指導を年間を通して実施する。机上の学習だけでなく、あらゆる場面をとりえて、児童の人権感覚を育てていく。職員の人権感覚を磨くための研修会も計画的に実施する。
6 学校安全の充実(防犯・防災)	火災・地震・不審者への対応等の訓練を、年間を通じて計画的に行い、児童の防犯防災能力を育てる。	年間計画をもとに、状況にあった方法で各訓練を実施した。今年度は、教職員による計画で不審者対応の訓練も行った。様々な訓練が、自身の安全を守るためであることを、児童に再度確認していきたい。	訓練の必要性を丁寧に指導し、児童一人一人が、自身の身の安全を守ることができるよう、意識とスキルを身に付けられるようにする。
7 健康・安全教育の充実	養護教諭・栄養士を中心に、児童の健康や食育についての学習を行う。併せて家庭との密な連携を図る。	アレルギー児童対応・エビペン使用等の研修を、全職員向けと、各学年でそれぞれ実施した。職員間・学年間での共通理解が進み、児童対応の方法についても共有できた。今後も、新年度開始よりできるだけ早く研修を実施する。	養教諭や栄養職員を中心に校内研修を計画し、年度当初に実施する。食育の外羽州にも積極的に取り組んでいく。
8 教育環境の整備 地域との連携	地域・保護者の協力のもと、児童の安全を守り、学習環境を整えていく。 学習の中に、地域資源を積極的に取り入れる。	今年度は、地域ボランティアの方々との学習活動をコロナ前の状態に戻して行ってきた。学習活動がより豊かなものになったと感じている。	これまでの地域・保護者の協力をいただいていた学習活動を、今後も継ぎできるように地域とつながっていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
今年度は、計画した学校教育推進会議を行うことができた。来年度から、コミュニティースクールとして会議をスタートする。大きく形が変わるわけではないので、子どもたちのために、一層の連携を深め教育活動を進めていく。 また、R9年度には、70周年を迎えるので、地域と協力が不可欠となる。学校からの情報発信を丁寧に行っていく。	・今年度は、コロナ感染症が5類になったことで、教育活動に少し幅が持た。地域との連携・校外学習・学校行事等、必要なことを適切な形で行うことができた。子どもたちも、のびのびと学校生活を送っていたと思われる。 ・子どもの能力や個性が生きる学校、教職員相互の協力の中での研究研修、開かれた学校の方針の基、学校運営を行ってきた。中でも、子どもの理解(人権尊重)を大切に確かな学力の育成をめざしてきた。 ・学校評価アンケートでは、「学校の様子が見えにくい」という意見が複数あった。学校だより・学年だより・ホームページを活用し、教育活動についてわかりやすく伝えていくように務める。